

いじめのない学校にするために



いじめに対する基本的な考え

いじめはいつどのようなことが要因となって発生するかわからないという認識を持つておく。どの学級でもいじめが発生する可能性があるという危機意識を持つておく。

教師の姿勢

いじめは許されない。 いじめる側に問題がある。
いじめられている児童を守り通す。

という毅然とした態度を貫く。

取り組みの例

いじめを発生させない学級・学校づくりをする。

- 一人一人を大切にしたい学級経営に努める
友達のよさ・自分のよさに気づかせる場を多く設定する。
個々の子どもが認められ受け入れられる居場所づくりをする。
お互いを思いやり尊重し、生命や人権を大切にする態度を育てる。
(朝の会・帰りの会・学級活動・道徳の時間・人権週間等)
- 道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて豊かな道徳性を培う。
ボランティア体験・自然体験など人間関係を豊かなものにするための活動を意図的、計画的に取り入れる。

いじめの早期発見・早期解決に努める。

情報交換に努める。

気になる子はいないか→職員終礼・生徒指導委員会・平素の会話
教育相談の充実に努める。

定期教育相談 普段から子どもが悩みを打ち明けやすい雰囲気づくり
いじめ問題へは、複数の教師で対応し、必ず記録に残していく。

いじめの対応は全職員共通理解のもと、全職員でその解決にあたる